

図1. クモカリバチ属 *Pison* (1).

1-1, 1-2, クロバネクモカリバチ *Pison strandi* Yasumatsu, 1935 (1-1, メス ; 1-2, オス) ; 1-3~1-5, ツヤクモカリバチ *Pison punctifrons* Shuckard, 1838 (1-3, 1-5, メス ; 1-4, オス) ; 1-6, ハハジマクモカリバチ *Pison hahadzimaense* Tsuneki, 1894, メス ; 1-7, ハネダクモカリバチ *Pison argentatum* Shuckard, 1838, メス ; 1-8~1-10, コウライクモカリバチ *Pison koreense* (Radoszkowski, 1887) (1-8, 1-10, オス ; 1-9, メス).

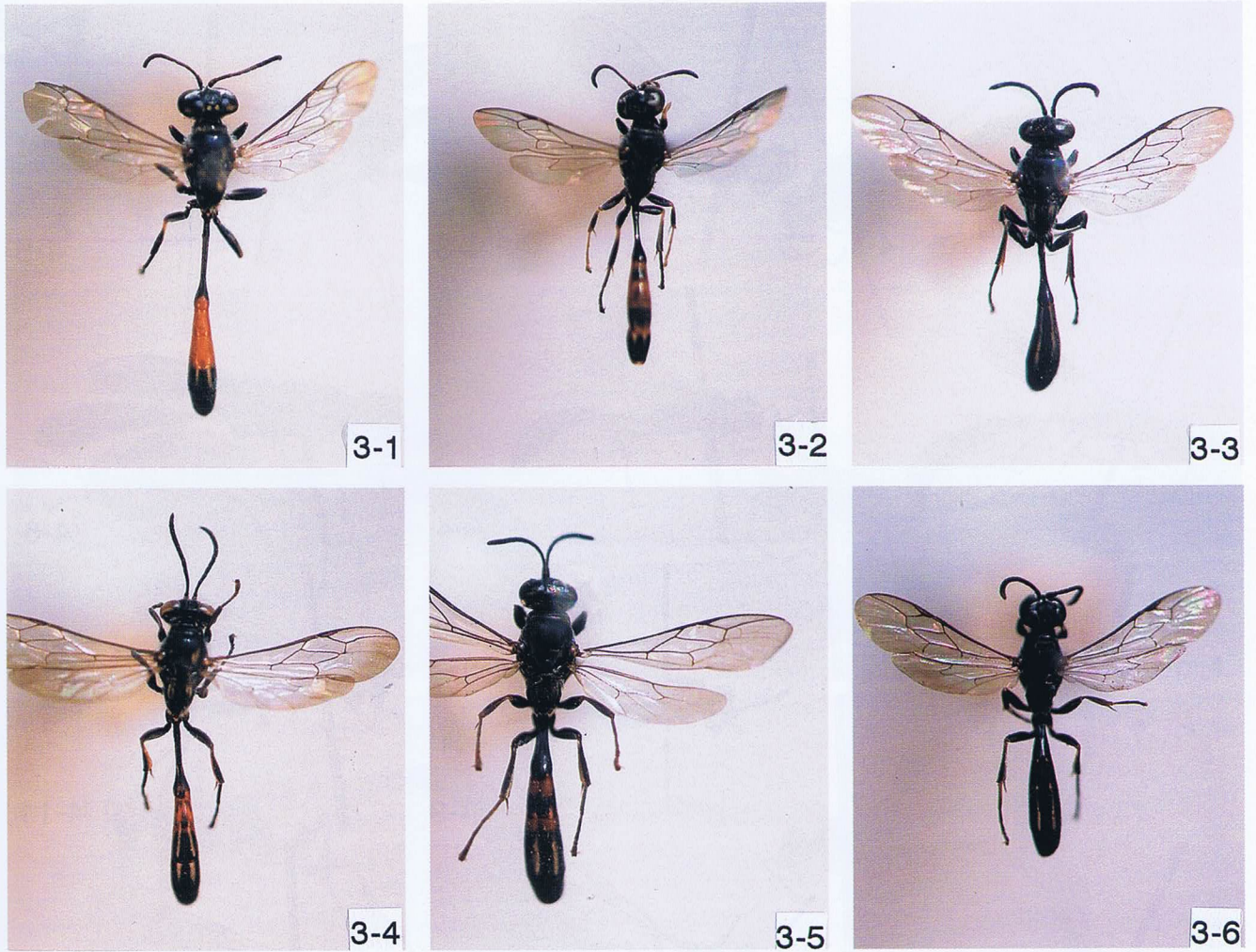


図3. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (1).

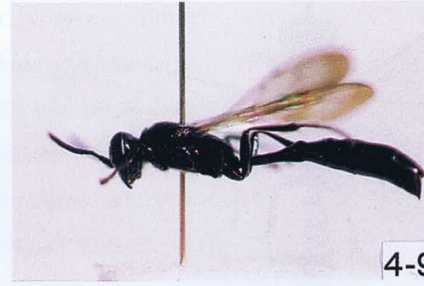
3-1, ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858, メス ; 3-2, 3-3, トゲジガバチモドキ *Trypoxylon errans* Saussure, 1867 (3-2, メス ; 3-3, オス) ; 3-4, オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932, メス ; 3-5, 3-6, コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932 (3-5, メス ; 3-6, オス).

種の概説

クモカリバチ属 *Pison*

コウライクモカリバチ *Pison koreanse* (Radowskiewski, 1887) [図1-8~1-10, 2-2, 2-19, 2-20]

体長7-8mm。黒色。大顎は赤褐色。翅は薄明。触角は短く、第7節以降は長さよりも幅の方が大きく、かつ楯節は先端に向かっにつれて明瞭に幅がなくなる。メスの顔面の先端は円く、オスでは三角形状で、両角部の基部間接の縁は平行となる。複眼には立毛が密に生える。腹節間のくびれがより顕著。宿習の系統位置が2部で *Krombeiniellum* 亜属に位置付けられる(日本産の他の種は *Pison* 亜属)。



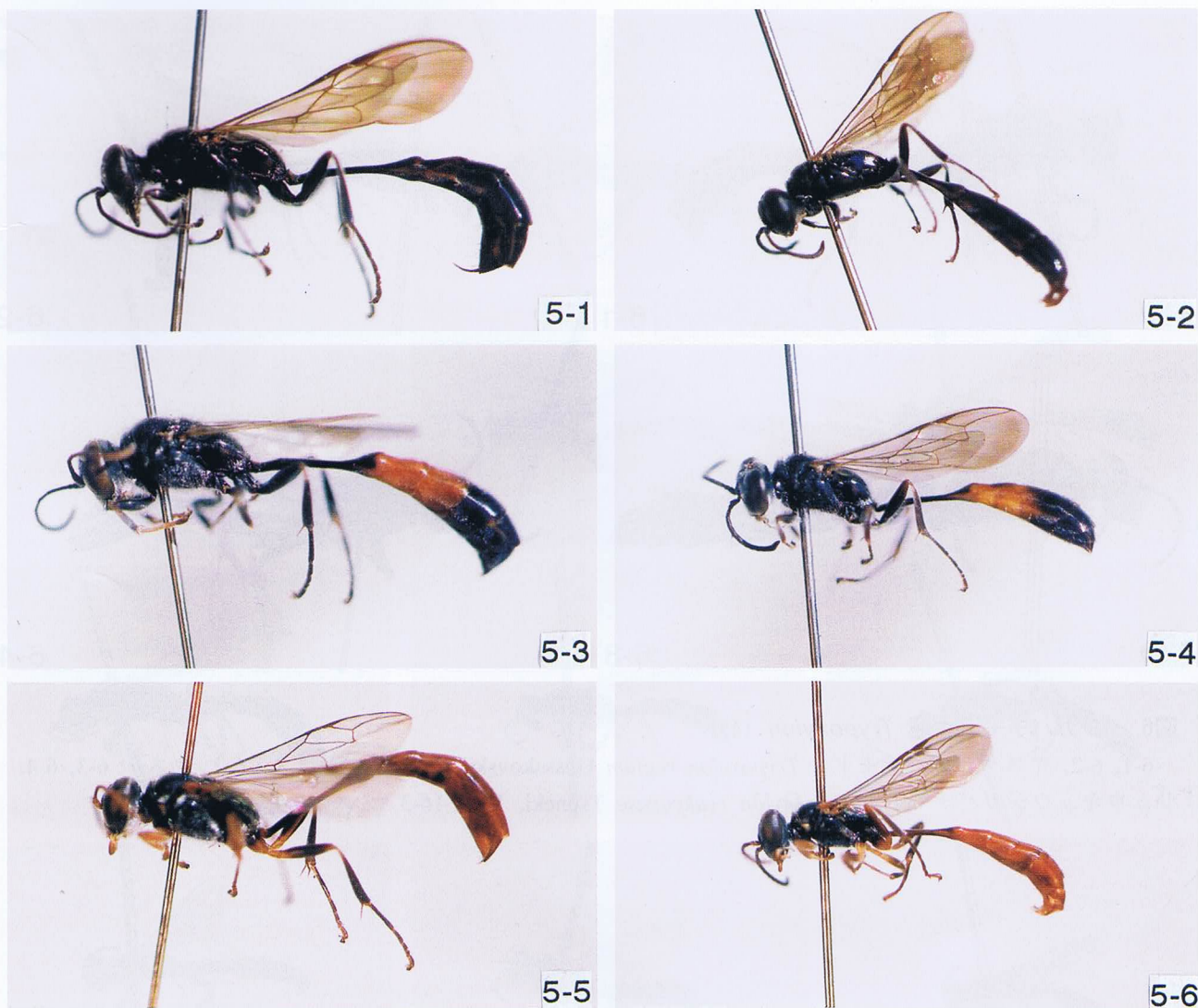


図5. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (3).

5-1, 5-2, オオジガバチモドキ *Trypoxylon malaisei* Gussakovskij, 1932 (5-1, メス ; 5-2, オス) ; 5-3, 5-4, ナミジガバチモドキ *Trypoxylon petiolatum* Smith, 1858 (5-3, メス ; 5-4, オス) ; 5-5, 5-6, イシガキジガバチモドキ *Trypoxylon petioloides* Strand, 1922 (5-5, メス ; 5-6, オス).

図4. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (7)

4-1, 4-2, ササジマンガバチモドキ *Trypoxylon chichibuanense* Tsuneki, 1973 (4-1, メス ; 4-2, オス) ; 4-3, 4-4, トゲジマンガバチモドキ *Trypoxylon erianthi* Saigusa, 1867 (4-3, メス ; 4-4, オス) ; 4-5, 4-6, クロイワジガバチモドキ *Trypoxylon inornatum* Mizukoshi, 1926 (4-5, メス ; 4-6, オス) ; 4-7, 4-8, ホソジガバチモドキ *Trypoxylon unyashii* Yasuhiko, 1955 (4-7, メス ; 4-8, オス) ; 4-9, 4-10, コウノスジガバチモドキ *Trypoxylon konoense* Tsuneki, 1962 (4-9, メス ; 4-10, オス) ; 4-11, 4-12, ニッポンジガバチモドキ *Trypoxylon nipponense* Tsuneki, 1956 (4-11, メス ; 4-12, オス) ; 4-13, 4-14, マルトキレンジガバチモドキ *Trypoxylon schizocelaevatum* Krom, 1878 (4-13, メス ; 4-14, オス) ; 4-15, 4-16, タカサゴジガバチモドキ *Trypoxylon takasagoense* Tsuneki, 1960 (4-15, メス ; 4-16, オス) ; 4-17, フクイジガバチモドキ *Trypoxylon ambiguum* Tsuneki, 1956, メス ; 4-18, トキエンジガバチモドキ *Trypoxylon thalium* Tsuneki, 1961, メス.

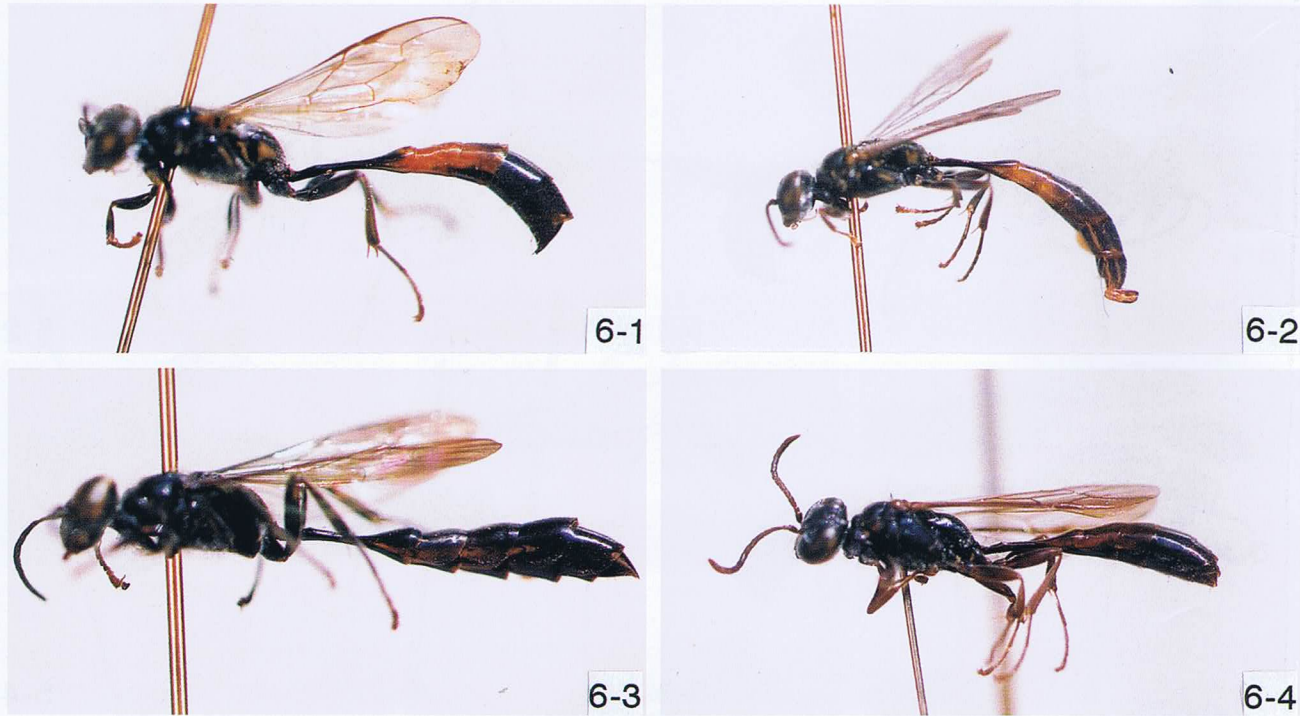


図6. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (4).

6-1, 6-2, キスケジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Gussakovskij, 1932 (6-1, メス ; 6-2, オス) ; 6-3, 6-4, リュウキュウジガバチモドキ *Trypoxylon ryukyense* Tsuneki, 1966 (6-3, メス ; 6-4, オス).

図7. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (5).

7-1, 7-2, ケシジガバチモドキ *Trypoxylon regium* Tsuneki, 1956 (7-1, メス ; 7-2, オス) ; 7-3, 7-4, エゾジガバチモドキ *Trypoxylon figulus* (Linnaeus, 1758) (7-3, メス ; 7-4, オス) ; 7-5, 7-6, サマトジガバチモドキ *Trypoxylon frigidum* Smith, 1856 (7-5, メス ; 7-6, オス) ; 7-7, 7-8, ヒメジガバチモドキ *Trypoxylon fronticornis* Gussakovskij, 1938 (7-7, メス ; 7-8, オス) ; 7-9, 7-10, ヨダマシジガバチモドキ *Trypoxylon kodanarum* Tsuneki, 1977 (7-9, メス ; 7-10, オス) ; 7-11, 7-12, コイケジガバチモドキ *Trypoxylon koidense* Tsuneki, 1956 (7-11, メス ; 7-12, オス) ; 7-13, 7-14, ナンブジガバチモドキ *Trypoxylon nambu* Tsuneki, 1966 (7-13, メス ; 7-14, オス) ; 7-15, 7-16, マダラジガバチモドキ *Trypoxylon reticulatum* Antropov, 1987 (7-15, メス ; 7-16, オス) ; 7-17, 7-18, ササボロジガバチモドキ *Trypoxylon sapsarocase* Tsuneki, 1969 (7-17, メス ; 7-18, オス).



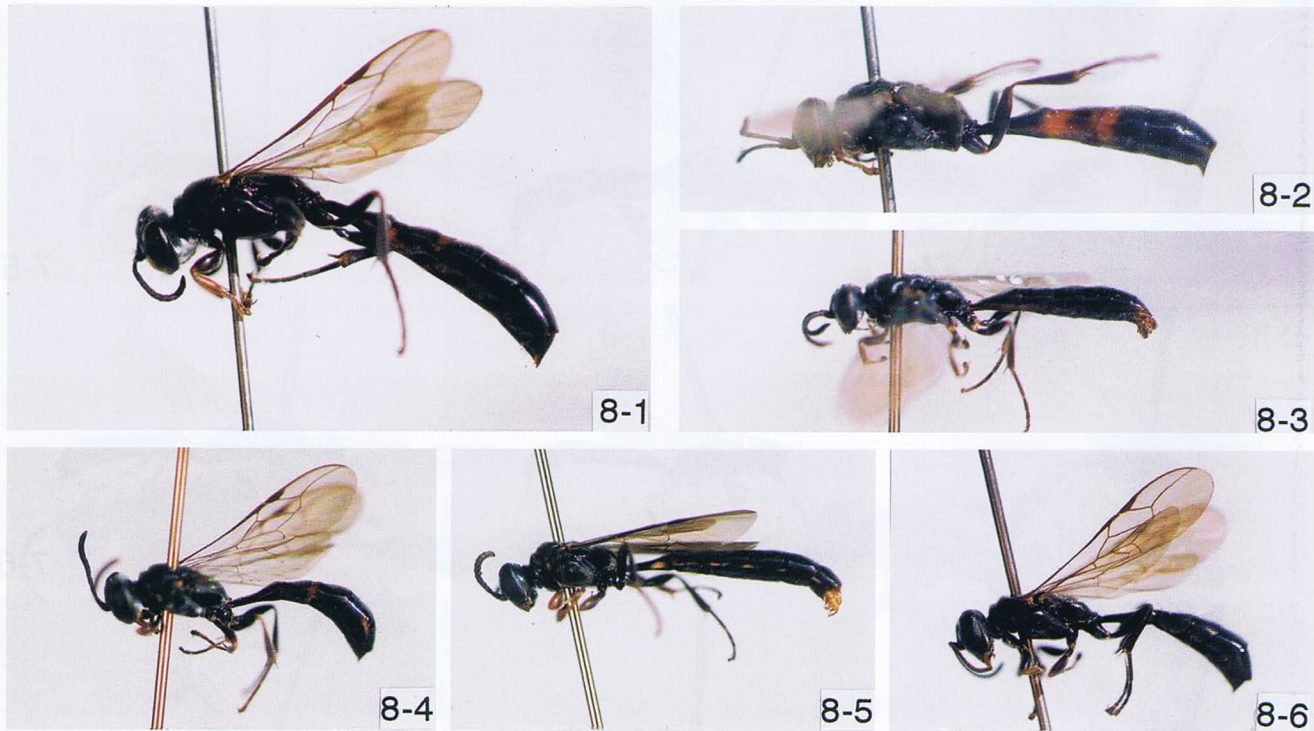


図8. ジガバチモドキ属 *Trypoxylon* (6).

8-1~8-3, コシブトジガバチモドキ *Trypoxylon pacificum* Gussakovskij, 1932 (8-1, メス (黒色型), 8-2, メス (腹部第2節と第3節に赤帯のある赤色紋型), 8-3, オス); 8-4, 8-5, シモヤマジガバチモドキ *Trypoxylon shimoyamai* Tsuneki, 1958 (8-4, メス; 8-5, オス); 8-6, ミヤマジガバチモドキ *Trypoxylon varipes* Pérez, 1905, メス.

北米の記録は、第二次世界大戦後に物資の移動に伴って侵入、定着したものと思われ、アリューラン、ミシガン、ワシントン、カンザスから記録されている。さらにカナダのオンタリオ州にも侵入者が報告された。

小さい泥壺を複数まとめて作り、関東地方ではハグモ科のネコハグモを狩り、1つの壺に37-69頭(7月)、12-18頭(8月)のクモを入れる(南部: 2003, 2004)。7月に作るクモは個体の体重は小さく、そのために多くの個体を持つと判断される。北米でもネコハグモと同属の *Dugesi* 属の種を狩る。また、カニグモ科のクモを狩る記録もある。

分布: 本州: 朝鮮半島, 台湾, 中国, ロシア(沿海州), 北米(人為的移入), カナダ(人為的移入)。

ハネダクモツリバチ *Ploce argemontow* Stackard, 1938 (図1-1, 2-4, 2-8, 2-14, 2-15)

体長5-8mm。黒色。頭は基部を除いて赤褐色。脚は黒色であるが、前脚腿節外側に銀白色の毛が密に生え、そのために前脚腿節は銀白色に見える。同様の毛は前胸板前、前伸腹節、腹部背面にも見られる。翅は淡褐色に曇る。

雌の第3節は第4節よりも短い。メスの前脚前縁は明瞭に凹み、オスの前縁は四角形状で、中央に葉状の小突起を持つ。頭頂は密に点刻される。腹部背板はさざざが突起で覆われ、尾端は凹みなく、オスの第3背板に小突起はなく、噴き出す突起はが丸い。